

痒い！ かゆい！ カユ～イ！ あなたの牛群にも 「カイセン」いませんか？

今回は、外部寄生虫の「疥癬（カイセン）」に関する情報です。

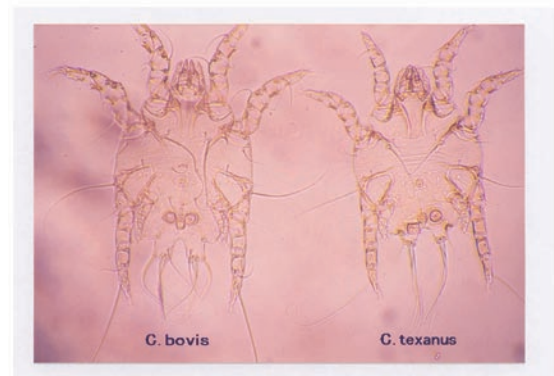
牛のカイセンは、特に尾根部、後肢の上部、乳房上部に寄生するダニ（主にウシシヨクヒビゼンダニ *Chorioptes bovis*）により発生する皮膚病です。

症状は、強烈な痒み、脱毛、皮膚の肥厚・損傷・出血、痂皮形成です。重症化すると食欲不振、栄養状態および泌乳量の低下が起きます。

カイセンの寄生率調査では、全ての農場の約半分に感染が認められ、陽性農場の個体の30～100%と非常に多くの牛に見られます。皆さんの牛群にも、いますよ～～。



疥癬ダニ



組合員の皆さんは「カイセン」による症状を、いつもたくさん見ていると思います。しかし、病気という認識が薄く、放置されているのが現状で、牛は毎日「痒み」のストレスに苦しんでいます。痒みが大変なストレスであることが知られていますが、あまり積極的に駆除されていないのが現実で、感染した牛はそのまま放置され、日々痒みと戦っています。

痒いと食欲も落ちます、乳量も落ちます、繁殖も駄目です。だって痒くて、それどころではないんですから…。

だから、カイセンを積極的に駆除しませんか？！

カイセンの駆除は、ポアオン製剤（背中にかける駆虫薬）が主流で効果も高いです。内外部寄生虫駆除剤の「イベルメクチン製剤」、「モキシデクチン製剤」、また外部寄生虫駆除専用の「フルメトリン製剤」が簡便で有効です。また昨年発売された牛乳の出荷制限がない内外部寄生虫駆除剤「エプリノメクチン製剤」も泌乳期には有効です。

出来れば、全頭一斉に駆除した方が再感染しませんので効果的です。一度全頭駆除すれば、後は乾乳期に定期的に投与すると良いです。

＝カイセン駆虫による効果＝

・カイセンの駆除により、皮膚の病巣は駆虫後2週目位から改善し、7週でほぼ消失します。痒みに関しては駆虫後迅速に効果が現れます。

家畜技術情報

- ・泌乳量が増加します。ある調査では年間約 2,000kg 増加する事がわかりました。外国の文献でも平均 500kg 増加することが知らされています。
- ・産次別乳量比較においても、それぞれにおいて駆虫後に増加が認められます。
- ・乳汁中の体細胞数の変化も、駆虫により投与 1 ヶ月日から効果が現れます。1 ヶ月経過しても駆虫した群は体細胞が非常に安定して推移し、3 ヶ月は持続することが判明しています。
- ・繁殖成績では、駆虫後の初回受胎率が 10% 以上も良好であったとの報告があります。これらの効果は、全て痒みのストレスから開放されることが原因と考えられます。

終わりに…

カイセンの駆虫により、ダニが迅速に死滅するため、駆虫後 1～2 日で痒みが急速に消失し、早急にストレスから開放されるのは牛にとって非常に安楽なことです。

長く苦しい痒みは、想像以上にストレスを与えて、生産性に大きな障害を与えます。

近年、家畜福祉が非常に大きく叫ばれています。飼い主は、快適で安楽な飼養状況を保たなくてはなりません。その点からも、ストレスが少ない環境で牛を飼養することが必要です。そのひとつとして、カイセンの治療を積極的に実施しましょう。

あなたは、背中が少しでも痒いと我慢出来ないで、何とかして痒こうとするでしょう。牛はそれが出来ず、じっと毎日我慢しています。カイセンは駆虫するとすぐ効果が出ます。積極的に駆虫して下さい。

今日から、もっと牛の後ろ姿を見て、「痒みストレス」から開放してあげませんか！

次は、鶴居家畜診療所の茅先秀司さんにバトンタッチします。

(西部事業センター 高橋 俊彦)